

# 経営比較分析表（平成28年度決算）

宮崎県 三股町

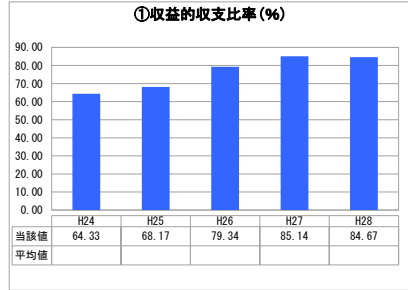
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cc3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20㎡ <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	37.41	99.58	3,326

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
26,054	110.02	236.81
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
9,737	2.91	3,346.05

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成28年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



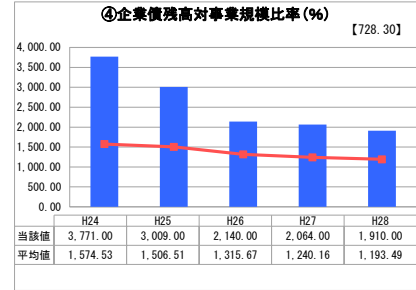
「単年度の収支」



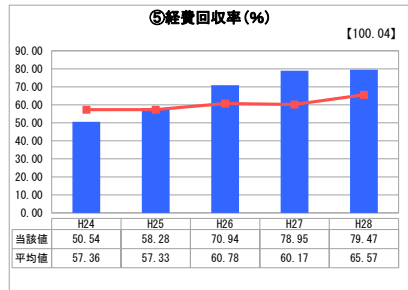
「累積欠損」



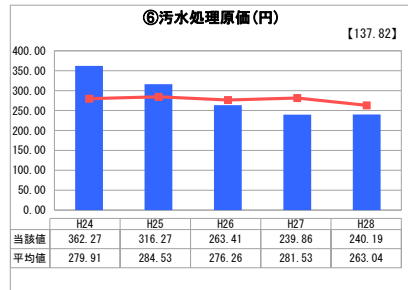
「支払能力」



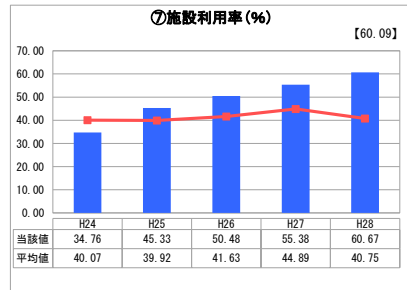
「債務残高」



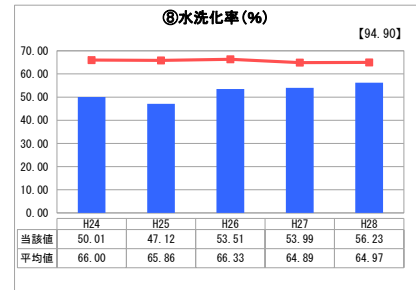
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

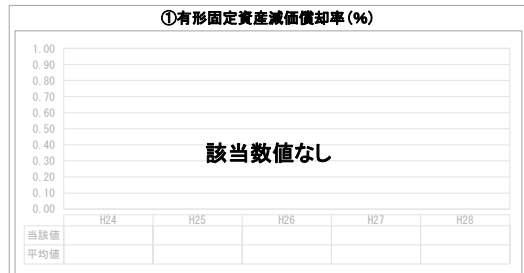


「施設の効率性」

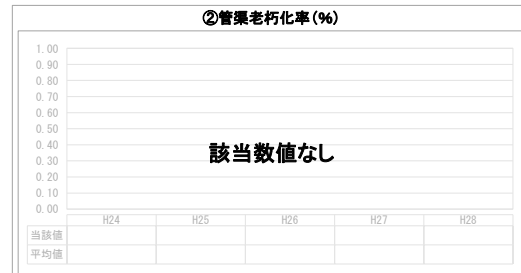


「使用料対象の捕捉」

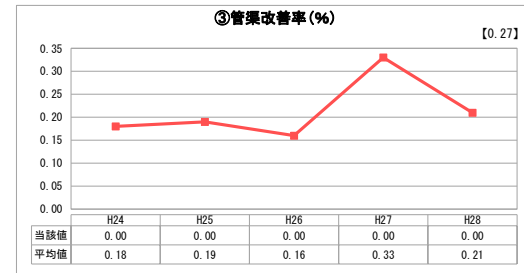
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析概

### 1. 経営の健全性・効率性について

本町の公共下水道は、平成17年に共用開始し12年が経過しています。しかし普及率は37.4%と低い水準のため、事業整備投資に対し使用料収入が低いことから①「収益的収支比率」が100%を下回っています。このことにより、経営の健全性が確保されているとはいえない状況です。しかし、近年は接続件数の増加により使用料収入が増え「収益的収支比率」は徐々に改善されてきています。④「企業債残高事業規模比率」は、H28年度まで、一般会計繰入金により随われている状況ではありますが、今後は使用料金の増加に伴い、起債償還への充当が見込めることから、一般会計繰入金が増え、企業債比率が改善されると予想されます。また⑤「経費回収率」については、類似団体平均値65%に対し本町は79%と上回っており、経営の改善が進んでいることが確認できます。⑥「汚水処理原価」については、H26年度より類似団体平均値を下回っていますが、今後は施設の更新等が出てくることから「汚水処理原価」が高くなることと予想されます。そのため、施設の寿命化に努める必要が出てきます。⑦「施設利用率」は、平成25年度から類似団体平均値を上回っていますが、更に効率性の向上に努める必要があります。⑧「水洗化率」は類似団体平均値を下回っており、接続推進に努める必要があります。

### 2. 老朽化の状況について

供用開始から12年が経過していますが、耐用年数を超えている管渠はなく、現時点で必要な改築等は無いため、管渠改善率は低い水準となっています。しかし、処理施設については、今後徐々に耐用年数を向かえることから、施設の長寿命化計画を作成し、随時改築・修繕を行っていくことが必要となります。

### 全体総括

平成28年に策定した経営戦略により、経営の健全性と効率性を高めるため、水洗化率の向上による使用料金の増と、汚水処理施設の統合による、効率性の向上が必要となります。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成24年度から平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。